



シーニックバイウェイ北海道 「トカプチ雄大空間」が 指定ルートに



運営代表者会議
代表

野村 文吾さん

十勝に3つのルート

十勝管内に新しいシーニックバイウェイのルート「トカプチ雄大空間」が、2010年（平成22年）5月17日に誕生しました。エリアは十勝平野を中心に1市6町（帯広市、音更町、芽室町、幕別町、池田町、豊頃町、浦幌町）にまたがります。ひらがなの“の”の字を描くように、賑やかな帯広中心街から、手入れの行き届いたガーデンが人気のスポットへ。さらに芽室や音更の、のどかな田園風景が見る人の心を癒し、寛ぎの時間を提供するの、世界で唯一のモール温泉がある十勝川温泉。そして十勝の開拓の歴史が始まった十勝川の河口に位置する浦幌、豊頃につながるという具合に、ストーリー性を重視しているところがポイントです。また、十勝といえば、広々とした大平原と、美しくも雄々しい十勝山脈が織りなす雄大な風景を思い浮かべる人も多いでしょう。ネーミングは、まさにそのイメージを端的に表しており、「空間」という立体的な言葉を使ったのがミツです。従来からの「十勝平野・山麓ルート」「南十勝夢街道」を含め、十勝では

これら3つのルートが広域エリアとしてつながったことで、ますます魅力的な情報が発信されると期待されています。

経済活動重視

ところで、道内それぞれのルートに特徴があっただけですが、トカプチ雄大空間は経済活動を非常に重要視しているところが、最大の特徴です。

運営代表者会議の代表である野村文吾さんは「活動を継続させるためには、やはり地域に経済的メリットがもたらされ、地域社会が潤わなければ、途中で息切れしてしまいます。わたしたちは4年前から異業種の人間が集まって、ひたすら夢を語り合い、勉強を重ね、今回の認証に至りました。いらっしゃったお客さまが、心から感動できるルートではないかと自負しています」と力強く語ります。また、地理に不慣れでも効率よく、十勝の魅力に接してもらおうと、モデルコースを設定しました。

これに対し野村さんは、「旅先の大きな楽しみであるグルメにこだわった西コース（食感コース）は、有名なスイーツの本店や、豚丼の名店、十勝の食材がぞんぶんに味わえる屋台など、魅力的な食の施設が目白押しです。南コース（文化発信コース）は、世界でもここだけという、迫力あるばんば馬のレースが展開されるばんえい競馬や、ガーデニング人気でさらに注目度が高まっている紫竹ガーデンや真鍋庭園、また競馬場内にも、最近、地元グルメのレストランや産直市場等がオープンしたばかりです。歌にもなった愛国駅と幸福駅は『恋人の聖地』に選定されており、カップルでも訪れてみたい場所です。東コース（悠久の歴史探

索コース)は、十勝開拓の歴史に触れられ、アイヌ文化についても理解が深まる史料館や博物館などがあります。どのコースも、ドライブ中に休憩できるしゃれたカフェが点在しています」とそれぞれの魅力的なコースを説明します。

四次元的活動

野村さんは「コースそれぞれに展望台が設けられており、高い位置から見る十勝の風景は、本当に素晴らしいんです。平面の広がり感による横軸と、目線を上から下へと見渡す高さ軸、そして依田勉三の晩成社をはじめとする、この地ならではの歴史の歩みという時間軸。わたしたちは、四次元的に活動を考えており、この活動を通してまずは短期的にでも「十勝へ行ってみたい」という方が増え、さまざまな交流が生まれることで短期的な滞在から、中、長期的な滞在へとシフトしていき、さらには定住や移住へと結びついていけばと考えています。人口が増えることで、地域は活性化していくでしょうし、新しい産業だって生まれます」と理念を語ります。

ともすれば美しい風景も、美味しい食べ物も、その地域にいと、当たり前になってしましますが、その当たり前をもっと外に向かって、上手に伝えていく必



認定証を受けとる野村代表

要があることも周知の事実。農業が基盤の地域だけに、こうした情報発信は、決して得意な分野ではなかったのかもしれませんが、今後は観光面での取り組みも大きな課題となってきそうです。独自の発想として、ライフコンシェルジュとって、訪れた人に十勝の生活を伝えるアドバイザーの育成も視野に入れています。

「地元の方は、道東自動車道が伸びて、道央圏に行きやすくなるという発想をしがちですが、それだけではないでしょう。道央圏の方はもちろん、多くの方、海外の方にとっても十勝を訪れやすくなるということです。ぜひ、高速をおりたらトカプチ雄大空間を堪能していただきたいですね」と、活力あふれる十勝を目指す野村代表の言葉は、本当に力強いものでした。

